

下村耕嗣先生と追悼カンファレンス

神戸大学経済経営研究所

教授 趙 来勲

故下村耕嗣先生の追悼カンファレンスが11月22日～24日に経済経営研究所で開催されました。下村先生の元共著者、友人等著名な経済学者30名ほど世界中から集まって、学術論文を発表しました。初日、座長や他の出席者全員で100人近くが下村先生の功績を追悼し、先生の御遺影に献花しました。また、IEFS - Japan による功労賞の授与式も執り行われました。いろいろな準備、予約、交渉、会計等に関して非常に助けて下さった経済経営研究所(以下 RIEB)の上東先生、渡邊さん、村瀬さんや事務の方々にこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。皆様のおかげでカンファレンスは予想以上に成功に終わりました。

下村先生は、我々の時代で生産性の最も高い経済学者の1人でした。100以上の査読付き論文の中に、いわゆるトップジャーナルに掲載されたものも数多くあります。私は「彼がなぜそんなにできるのか」とよく考えていました。

日本の大学教員には、学部、大学院そして就職先が同じ大学という人が少なくないという印象が私にありました。神大もそのうちの一つだという噂もありました。東京にある名門の K 大学では他大学出身者は研究を一生懸命しますが、K 大学出身者は学内政治に熱中みたいだと K 大学の先生から聞かせて下さったことがあります。下村先生が私を誘って下さった時、現在の神大はまったく違うし、RIEB は私のような外国人にとってさえ、特に開かれているとおっしゃっていました。

私を納得させるために、彼は秘密を披露してくださいました。下村先生の本名は「和雄」でした。恐らく「日本の英雄」を意味するこの名前のご両親によって与えられたと思います。彼は、かつて学内ジャーナルに「耕嗣」(一生懸命にそして謙虚に働く)という名前で論文を投稿しました。しかし、編集事務所は「和雄」を利用するよう命じました。下村先生はそれを拒否し、論文を取り下げました。「No 耕嗣? No ペイパー!」その時から、彼は国際的なジャーナルに絶えずに投稿し、論文を発表していました。そういうわけで、彼は 100 以上の査読付き論文を書いたのです。

研究のみならず教育や国際的な学者の招聘においても、先生がこれほど貢献できたもう一つの理由は、彼が休みなく働くということでした。昨年 10 月に、彼は 2、3 週の間一時的に退院しました。すぐに、彼は教室でそしてオフィスで、学生に授業をはじめました。私が半年ぐらい休まれたらと提案しましたが、

怒られてしまいました。今年の2月末には完全に退院される予定でしたが、彼の3月の予定は：学生の研究指導とセミナーに加え、海外学者の Ray Riezman, Ngo van Long, Murray Kemp と Sean Michel Grandmont 先生たちを順次招聘するというものでした！

彼は、エンターテイメントに対しても、とてもまじめでした、たとえば、忘年会で唄えるようになるために、自宅で一週間も練習するとか。かつて、私はこのニュースレターに半ページぐらいの短い文を書きました。シドニー2006でマレイ・ケンプ先生の80歳誕生日記念カンファレンスについてでした。冗談とレポート半々の内容でしたが、私が最終稿を提出する前に、先生は病院のベッドで二回の校正を下さいました。その翌日、先生はさらに編集室あての電話で、もう一回訂正を下さいました！「ヌーディストのビーチ？」、「Sunbath に対応する日本語がないな。」と。

先生が最後に大学に電話をかけられた日、彼は私の電話番号を尋ねられたそうです(病室に電話できませんでした)。私たちは、ちょうど薬の副作用で苦しんでおられて、2、3日で回復すると信じていました。しかし、先生と二度と話すことは、できませんでした…

私にどんな新しいアドバイスを与えようとしておられたのか、また、告白すべきさらなる秘密があったかどうか、今日も、私は考えています。